

我孫子市消費者の会

お知らせ

2013年9月18日 第39期 No. 6-447

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434

<http://www.abikoshi-syouthisyanokai.net/wp/>

台風は大丈夫でしたか

関東地方に台風が来たのは何年ぶりでしょうか？16日は各地に被害を及ぼしながら駆け抜けて行きました。千葉県は少しはずれましたが、風が強かったですね。今年は自然の猛威を実感することの多い年でした。

皆様のお宅では大丈夫でしたか？

高齢社会への対応を探る会イベント

下記の通り第28回のイベントが開かれます。
その時、どうする!!妻が夫が親が要介護に!

ー「自宅介護時代」へ備えるー

日時：10月5日(土) 13:00~16:00

会場：けやきプラザ2Fふれあいホール

第1部 我孫子の現状と市民のつばやき

第2部 自宅介護でも安心できるまちにするには

講演「時代が求める在宅医療」 苛原 実 氏
対談「我孫子での在宅医療を推進するために」
展示 各団体が役に立つパネルを作っています。

ご期待ください。(10月1日から5日)

チラシを同封します。是非ご参加ください。

2013年度 消費生活の安定及び向上に
向けた県民提案事業

あなたも参加しませんか～

超高齢社会の安心のまちづくりへ

日時 11月16日(土) 13:30~16:30

会場 アビイホール

(イトーヨーカドー我孫子店3F)

第1部 我孫子の高齢者福祉を支えてきた市民団体の活動紹介と「活動から見えている高齢者の諸問題と提言」

出演団体： NPO法人「まどか」・NPO法人「デイヘルプ」・我孫子ふれあいサロン連絡会・一粒の麦・ふれあい弁当の会・NPO法人「ふれあい塾あびこ」・社会福祉法人「エスポワールわが家」・久寺家生活お助け隊・湖北台8丁目見守りの会・NPO法人「東葛市民後見人の会」

第2部 講演

「高齢社会における契約システムの課題」

講師 淑徳大学総合福祉学科教授

結城 康博 氏

第3部 千葉県制作のDVD「悪質商法をシャットアウト!被害事例に学ぶ対処法」

来月チラシを配布します。新しいお友達をお誘いの上、ご参加ください。

16日の広報あびこで、同時刻に落合恵子さんの講演が、けやきホールであると知りました。落合さんは今年5月3日に「憲法を考える市民の集い」でお話しいただきました。素晴らしい講演でした。でも、県民提案事業の出演団体の会員の方は、是非アビイホールにお越しください。結城先生は、今後の社会保障政策がどうなるかも含めてお話いただきます。

東北へ行ってきました

8月30日～31日に28名で地震と津波、原発事故を忘れないため、東北の旅に行ってきました。今回の旅を組み立ててくれた栗原洋子さんが、帰ってすぐにご自身のブログに報告をしてくれましたので、その中からつまみ食いをさせていただきます。

(和田が部分加筆)



1日目 我孫子を8時に出発、旧伊達邸「鐘景閣」での昼食後、名取市の閑上（ゆりあげ）地区へ。

「閑上震災を伝える会」の菊地訓子さんがバスに同乗してくださり、被災前と被災後の対照写真を配布して、説明してくださいました。津波でまちがほとんど失われた地区です。被災前の写真と、今見ている景色とのあまりの違いにびっくりしました。

震災当日は閑上中学校の卒業式で、自宅に戻った生徒さんの中からも死者が出たそうです。

広大な閑上地区が360度見られるという日和山（といっても4メートルくらいの塚）から見たいくつかの建物（小中学校を含めて）は総て無人の廃墟でした。夏草がぼうぼうと生えているだけでした。

閑上地区は被災地の中でも全く復興の兆しの無い地区ということでしたが、町ができた由来が、海岸に近い場所の埋め立てによるということなので、これを更にかさ上げすることは、かなり難しいのではと感じました。

全国にはこのような海拔0メートル地区はたくさんあるのでは無いでしょうか？何しろ平地の少ない日本では、このような方法でしか、宅地を拓げることができなかつたのですものね。

ほとんどの方は仮設住宅や借り上げ住宅に移られて、残されたご自分の住宅に住んでいる人達には、あまり援助の手も入らないとのこと。また、ご本人達も、自分達は家が残ったのだからと遠慮して、声も上げないでいるけれど、スーパーも何もかも無くなり、すごい不便を感じながら暮らしているとのことでした。

支援物資は何でも歓迎すると聞きました。参加者に新品をと呼びかけたところ、沢山の品物が集まり、届けることができました。

当日参加できないけれど、不要傘のバッグを30枚も作りバス停に届けてくれた会員、少ないけれど、行く会員に前もって託してくれた会員もいらっしゃいました。私（栗原）は、事業を縮小する近くの薬局からいただいた高齢者用のオムツを運びました。大量でしたが、バスに積み込めたので、助かりました。

津波で被害を受けた地域の小さな集会所を修理して「まちカフェ」として皆さんが顔を合わせる場所として活用している所へ、お届けしてきました。夜は東松島市で一泊。

2日目 北茨城市へ。

我孫子のごみの最終処分を引き受けてくれているのが、北茨城市。私たちは震災後、ささやかな義援金を送っていたので、今回は、市の担当者や秘書課の方が対応してくださいました。

岡倉天心らが、活動の拠点とした六角堂も津波で流されましたが、再建されていて見学できました。

その後、市の中心地の大津漁港へ移動。災害の状況や復興及び今後の計画等の説明を受けました。大津地区は津波想定区域が広いので、山に逃げるための崖道の整備や、逃げ遅れた人のための避難タワーの新設などが決定されています。漁港の市場は屋根だけ残っていて、船も出漁はしていないという説明でした。岸壁や船の補修も重要ですが、なにより、福島原発の事故により、この辺で水揚げされたものは買ってくれないということ、出漁したくても出来ないということが、現実だそうです。

津波被害で壊れ、最近リニューアルオープンされたばかりの漁業歴史資料館「ようそろー」も見せていただきました。たまたま、すぐ隣で市場関係のイベントがあって、バンド演奏やテントの出店などがにぎやかに並んでいましたが、時間のせいかお客は地元の人ばかりという感じでした。

最後に寄った魚屋さんも、以前は大型バスからのお客でにぎやかだったのに、われわれ以外の客もなく、残った魚はどうするのかと心配しました。福島の浜通りの観光客はゼロになってしまったので、北茨城市を通過したり、寄ったりする人達も激減したと思われます。

韓国をはじめ、日本の海産物を買ってくれていた国でも、放射能汚染の日本産は輸入お断りという現在、日本の農産物や海産物を、どのようにして海外へ輸出する手立てがあるのでしょうか。安倍首相教えて？（栗原洋子）

～ ～ ～ ～ ～

「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、東北の震災の大きさを実感、復興はまだまだ先のことだとわかりました。今も時々大きな地震が起きていますが、そこに放射能問題が絡んで、「本当に大丈夫なの??」と思います。

28名それぞれの心に深い思いを残した東北の旅でした。

